

HPは会報から抜粋しますのでページ番号と一致しません。



平成30年7月12日

根本正顕彰会会報 第88号

発行者 根本正顕彰会

「踏まれても根強く忍べ路芝のやがて花咲く春をこそ待て」

目次

- | | | | |
|---|------------------------------|----------|------|
| 1 | 巻頭言 「読書について考察する」 | 会長 小林茂雄 | 2 頁 |
| 2 | 平成30年度総会および公開講演会」(報告);(附:資料) | | 3 頁 |
| 3 | 平成30年度第1回公開講座(報告);(附:資料) | | 32 頁 |
| 4 | 根本正廣様を偲んで | 副会長 横地富子 | 40 頁 |
| 5 | トピックス 「根本正代議士と日露戦争」 | | 41 頁 |
| | 編集後記 | | 42 頁 |

【お知らせ】(予告)

(1) 平成30年根本正顕彰フェスティバル

日時 平成30年8月26日(日) 13:30 ~ 16:00
会場 瓜連;総合センター らぼーる
講演 ① 政治家根本正と岩上二郎の生涯 会長 小林茂雄
② 瓜連城の攻防と佐竹氏 理事 仲田昭一

(2) 根本正ゆかりの地を訪ねる旅

期日 平成30年9月9日(日)
集合 那珂市中央公民館前 午前8時10分
方面 松戸市戸定邸、旧取手宿本陣「染野家」、
稲敷市「横利根閘門」、道の駅「いたこ」
参加費 一人3,000円
申込み 7月20日までに小林 会長(029-295-1508)、
増子副会長(029-298-1690)まで

読書の歴史

読書の意味は「読む事」とされるが、活字の登場以前では、これらは主に富裕層やインテリ層にのみ許された行為であった。活版印刷技術の登場以降、書籍が大量生産されるようになって、大衆の識字率が格段に向上し、読書が大衆娯楽（趣味）として広く受け入れられるようになっていった。

日本では、江戸時代まで、主に四書五経など漢籍の音読が行はれていたが、明治時代以降になると黙読が主となった。当初黙読がそんなに広まっていない頃には、黙読する人は「何を読んでいるのか分からない」ため気味悪がられ、また、黙読が広まっても、なかなか音読の習慣を止められない人もいたとされる。黙読している間も声を出さずに音読しているのと同じように読む人もいた。また、江戸時代には四書五経の他に戯作本(『東海道膝栗毛』等)が登場して出版業が成立し、生活に余裕のある都市住民を中心に娯楽として読書が広がった。当時、日本語の崩した文字に対応するために、木版印刷が広く用いられた。

20世紀になると大衆の教育の広がり向上により、かつてより書を読む人達が増えて、また出版技術の向上により大量出版の時代となった。日本においては、大正時代から昭和前期における円本の流行が「廉価な本を大量に発行する」という出版形態の発端とされる。しかし、20世紀後半になってテレビやインターネット等他メディアの爆発的な発達により、知識情報獲得手段としての読書の地位が相対的に低下したため、若者が本を読まなくなったと嘆く人間の間で「活字離れ」「読書離れ」が語られることがあった。

読書の方法

読書の方法として、速読、精読、皮肉的に「積ん読」がある。また、書籍に限らないが原稿を関係者や第三者が読んで問題点を指摘する査読、問題点を修正したりする校正もある。

20世紀末より、インターネットの普及により、書籍データをパソコンや携帯情報端末(PDA)等にダウンロードして読書したり、その方法は多様化している(→電子書籍)

読書の効果

(1) 様々な本を読むことによって発想力が豊かになる。

(2) 脳トレになり、脳が活性化される。

オックスフォード大学の調査によると、集中して本を読むことにより脳が活性化され、働きが高まる効果があるということがわかっています。

(3) 文の組み立てや校正がうまくなる。

文章力を高めるためには文章をたくさん書くことも重要ですが、良い文章を読み、どのような法則があるかということ学ぶことも重要です。

(4) コミュニケーション力が高まる。

カーネギーメロン大学は、読書することによってコミュニケーション能力も上がるということを発表しています。

(5) ストレスの解消に繋がる。

6分間の読書をすることによって、ストレスが3分の1以下なるという研究結果があるそうです。これは、音楽を聴くことや運動をすることよりも高い効果があり、読書は脳を活性するだけでなくリフレッシュする効果もあるということがわかります。

読書をすることで良い効果が沢山得られますので、いろいろと多忙ではあるかと思いますが読書をする習慣を持ち、出来るだけ多くの読書時間を持つように心がけたいものです。

根本正顕彰会平成30年度総会并公開講演会（報告）



（総会会場）

1 日時 平成30年5月13日（日） 13:30 ～ 16:00

2 会場 那珂市中央公民館 2階 講座室

3 内容 （出席者；31名、委任状；29名、会員数；76名）

＜総会＞ （総合司会；山田正巳副会長）

（1）会長あいさつ

（2）来賓あいさつ、紹介（那珂市議会議員の遠藤実氏・笹島猛氏・寺門厚氏の3名）

（3）議事（議長：増子輝雄副会長）

① 平成29年度事業報告（仲田昭一事務局長） （以下；添付「総会資料」参照）

② 平成29年度決算報告（横田富子副会長）

監査報告（桐原英雄監事）

③ 平成30年度事業計画案（仲田昭一事務局長）

④ 平成30年度予算案（横田富子副会長）

（4）表彰

平成29年度茨城県教育委員会「輝く郷土の先人」新聞等コンクールにおいて優秀賞に輝いた安島美夏さん（那珂町立菅谷西小学校5年生）制作新聞「不屈の政治家根本正」（A3版）小林会長から表彰状と記念品が授与されました。



〈ごあいさつ〉

1 根本正顕彰会会長 小林茂雄 日頃から、会員の皆様方のご支援・ご協力を賜り平成29年度も無事に諸行事を遂行することができました。本日は、その結果および平成30



年度の事業ならびに予算案を呈上します。慎重なご審議をお願いいたします。また、会運営については、毎回の理事会等で練っていますが、このところ会員の減少が目立ちます。減少の要因としては、高齢化、意識の低下、定年延長による活動への参加不可者の増加などの現象と考えられます。ただ、これらは他の組織に於いても同様であります。お互いが声掛け合って会員の増加に努めたいものでありますし、募集活動にも邁進したいと思っております。本年度の活動につきましてもご支援・ご協力の程よろしくお願いいたします。

2 那珂市長：海野 徹氏 根本正先生の生き方・精神を那珂市内外に広げるべく活動



されている日頃のご努力に対し、深い敬意を表します。先般も「東京新聞」に紹介されておりました。成人を20歳から18歳とするいわゆる「大人の線引き」の問題を、根本正先生の禁酒禁煙法制定に向けて尽力された背景に焦点を当てたものでした。那珂市の学校教育に於いても「根本正先生の生き方」を大きな柱に据えて、「その高邁な理想」「あきらめない心」等学び、郷土に誇りを持てる子供たちを育てようとしています。今後の益々の発展・活動に期待します。

3 那珂市教育委員会教育長：大縄久雄氏

現在、那珂市の学校現場では、小学校3年生・4年生が副読本を用いて、中学生も道徳教育の授業において根本正先生について学んでいます。さらに、今日的那珂市の子供たちの教育すなわち小中一貫教育のプランを組む中で、根本正先生の生き方・生涯をベース・柱として具体的な指導をしてまいりたく検討・研究を進めているところです。すでにベースとなっている「なかつこ宣言」に加えての、新しい教育方針を確立しようとしています。

4 茨城県議会議員：先崎 光氏

根本正顕彰会の活動には知的好奇心を刺激されます。根本正先生の精神がもっともっと広がれば良いと考えています。そのような意味で、小学生の安島美夏さんが表彰されることは非常に喜ばしいことです。郷土の先人に学ぼう、その結果ふるさとへの誇りを持ち、やがけまたわがふるさとへ戻ろうとの引き金にもなりましょう。世の中の出来事には光りの部分と影の部分があります。光りは希望であります。教育は光りの部分を十分に教えたいものです。その過程で判断力を鍛えていき、やがて影の部分をも理解してバランスの取れた人間に成長していくものと思います。会員減少などの厳しさは、逆にこれからの飛躍をもたらすものでもありましょう。希望の光をかかげて邁進してください。

5 表彰された安島美夏さん

根本正さんのことは、学校で学びました。新聞づくりには是非この人を取り上げようと思いました。やってみると、色々な資料集めが難しかったです。でも根本正さんの生家を訪ねたりして色々なことを教えてもらいました。つくりあげてみて、やはり根本正さんは「いい人だった！」と思いました。



<公開講演会>

- 1 講師 根本正顕彰会会長 小林茂雄氏 (参加者; 46名)
- 2 テーマ 「根本正と明治維新150年」
- 3 要旨 (添付「講演資料」参照)

本年平成30年は、明治維新150年に当たる歴史の中でも大きな節目となる年である。ことに根本正は、明治維新を17歳で迎え明治・大正・昭和の時代を生き抜き、昭和8年(1933)に82歳でその生涯を終えた。明治維新の意義と根本正の生き方を関連させて根本正の人物について学んでみたい。

明治維新の大眼目は、五箇条の御誓文に表れている。一つは「広く会議を興し万機公論に決し、上下心を一にして、盛に経綸けいりんを行う」べく身分制を廃して平等な社会を確立し多くの意見が採り入れられる議会制を導入したことである。二つは、「知識を世界に求め、大いに皇基を振起すべし」とあるように開国して皇室を中心とする立憲君主制を採用したことである。さらに、キリスト教の布教が許可され、「平等・博愛」の精神が生涯のバックボーンに加えられた。また、天狗・諸生の悲惨な殺戮の繰り返しを目の当たりにして、根本正は将来のあるべき姿を模索していた。英語圏の新文化・文明に触れ、渡米の念願を叶えることができ、政治家として言論社会に生きる決意を固めた。正に、明治維新の新方向性を受けての生涯の出発であった。開国は、新たな外交問題、条約問題や領土問題への対応を迫られた。

一方、明治維新は明治天皇を頂点とする立憲君主体制の確立のために諸改革を断行した。廃藩置県はその最も大きな改革であった。版籍奉還のみでは、旧藩主と旧藩民・領民の絆は解けず、新政府の方針は浸透しなかった、旧藩主を除いて新知事を派遣したのである。

旧幕府は、開国以来榎本武揚や中村正直・渋沢栄一ら幕臣たちを欧米に派遣し、新文化の導入に励んだ。明治新政府も、岩倉具視や大久保利通などに加えて福沢諭吉ら留学生も派遣した。平等化から、国民皆教育・国民皆兵も導入、富国強兵策を推進した。教育面に於いての、根本正の義務教育無償化・優秀な青年を育成する禁酒禁煙法制定は大きな意義があった。

そのよう中で、朝鮮との関係が問題化した。征韓論である。日本はそのまま鎖国の朝鮮を放っておけばよかったのか。この複雑な両国関係は今日に及んでいる。それにしても、明治維新の実現に命がけで奔走した多くの志士たちが、仲間同士で対立し明治11年(1878)までにこの世を去った。明治10年(1877)、西南戦争で西郷隆盛が自刃、木戸孝允が病気、翌11年に大久保利通が暗殺で去った。この対立は避けることはできなかったのであろうか。

しかしその後、明治22年(1889)に大日本帝国憲法が制定され、翌23年には国会が開設された。アジアに於いては初めてのことであった。根本正の活躍の場が整ったのである。

平成30年度根本正顕彰会総会次第

日 時 平成30年5月13日（日） 午後1時30分から
場 所 那珂市中央公民館 2階 講座室

- 1 開会のことば
- 2 会長あいさつ
- 3 来賓あいさつ
- 4 議 事
議長選出
 - (1) 平成29年度事業報告について
 - (2) 平成29年度決算報告について
 - (3) 会計監査報告
 - (4) 平成30年度事業計画案について
 - (5) 平成30年度予算案について
 - (6) その他
- 5 その他
- 6 閉会のことば

－ 休 憩 －

公開講演会

演 題 「根本正と明治維新150年」

講 師 根本正顕彰会会長 小林茂雄氏

平成29年度根本正顕彰会事業報告

| | |
|-----------------------|---|
| 4月13日(木) | ① 理事会(年次事業計画・予算案準備ほか) (会場確認、講演会広報、総会準備、通知発送など) |
| 5月11日(木) 5月14日(日) | ② 理事会(総会準備) 総会・講演会(前那珂市教育長:秋山和衛氏) テーマ「那珂市の教育」 |
| 6月15日(木) 6月25日(日) | ③ 理事会(公開講座準備ほか) 第1回公開講座(増子輝雄副会長) テーマ:「根本正と第19代横綱常陸山」 |
| 7月6日(木) 7月13日(木) | ④ 理事会(顕彰フェスティバル・訪ねる旅準備ほか) (顕彰フェスティバル・訪ねる旅の広報) 編集会議 ⑤ 『会報』第85号(総会、講演会・公開講座など) |
| 8月17日(木) 8月27日(日) | ⑥ 理事会(顕彰フェスティバル・訪ねる旅準備) 顕彰フェスティバル 〈「根本正と中井川浩」(小林会長)、「木崎地区の歴史」(仲田事務局長;木崎交流センター)〉 |
| 9月14日(木) | ⑦ 理事会(「訪ねる旅」準備ほか) |
| 10月1日(日) 10月26日(木) | ゆかりの地を訪ねる旅(日立・高萩方面) ⑧ 理事会(公民館まつりテーマ「弱者へのまなざし」) |
| 11月23日(木) | ⑨ 理事会(公民館まつり展示作品作成ほか) 〈作品展示23日;発表;23日(金)~25日(土)〉 |
| 12月7日(木) | ⑩ 理事会(公開講座準備ほか)、 『会報』86号発行 (顕彰フェスティバル、訪ねる旅、地域フェスティバル) |
| 1月25日(木) | ⑪ 理事会(第2回公開講座準備・次年度準備ほか) |
| 2月18日(日) 2月22日(木) | 第2回公開講座(清水洞の上公園自然を守る会顧問鈴木孝雄氏)「根本正のふるさと清水洞の上公園と清水洞の上自然を守る会の活動」について ⑫ 理事会 |
| 3月8日(木) | ⑬ 理事会(『会報』第87号発行・次年度準備等) |

※ 理事会は原則木曜日とし、他に必要に応じて随時開催する。

公開講演会 1回、 公開講座 2回、 顕彰フェスティバル 1回、
公民館まつり 1回、 ゆかりの地を訪ねる旅 1回、 『会報』発行 3回

平成30年度根本正顕彰会事業計画

| | |
|----------------------|--|
| 4月12日(木) | ① 理事会(年次事業計画・予算案準備ほか) (会場確認、講演会広報、総会準備、通知発送など) |
| 5月10日(木) 5月13日(日) | ② 理事会(総会準備) 総会・講演会(小林茂雄会長) テーマ「根本正と明治維新150年」(仮題) |
| 6月14日(木) 6月24日(日) | ③ 理事会(公開講座準備ほか) 第1回公開講座(仲田昭一事務局長) テーマ:「水戸と秋田」-根本正と根本通明- (仮題) |
| 7月5日(木) 7月12日(木) | ④ 理事会(顕彰フェスティバル・訪ねる旅準備ほか) (顕彰フェスティバル・訪ねる旅の広報) 編集会議 ⑤ 『会報』第88号(総会、講演会・公開講座など) |
| 8月16日(木) 8月26日(日) | ⑥ 理事会(顕彰フェスティバル・訪ねる旅準備) 顕彰フェスティバル 「根本正と岩上二郎」、「瓜連城の攻防と佐竹氏」 |
| 9月6日(木) 9月9日(日) | ⑦ 理事会(「訪ねる旅」準備ほか) ゆかりの地を訪ねる旅(松戸戸定邸を中心に) |
| 10月25日(木) | ⑧ 理事会(公民館まつりテーマ「根本正の生涯と明治」) (仮題) |
| 11月21日(水) | ⑨ 理事会(公民館まつり展示作品作成ほか) 〈作品展示22日;発表;23日(金)~25日(日)〉 |
| 12月6日(木) | ⑩ 理事会(公開講座準備ほか)、 『会報』89号発行 (顕彰フェスティバル、訪ねる旅、地域フェスティバル) |
| 1月24日(木) | ⑪ 理事会(第2回公開講座準備・次年度準備ほか) |
| 2月17日(日) 2月21日(木) | 第2回公開講座(海老根敬理事) 「小野崎氏と根本氏」(仮題) ⑫ 理事会 |
| 3月7日(木) | ⑬ 理事会 『会報』第90号発行・次年度準備等) |

※ 理事会は原則木曜日とし、他に必要に応じて随時開催する。

公開講演会 1回、 公開講座 2回、 顕彰フェスティバル 1回、
公民館まつり 1回、 ゆかりの地を訪ねる旅 1回、 『会報』発行 3回

根本正廣様を偲んで

5月12日、根本正の孫であり会員の根本正廣様がお亡くなりになりました。2年前に90歳を超えたと書き添えられた暑中見舞いのお葉書をいただきお祝いの返事を差し上げました。その後お元気でお過ごしのこととばかり思っていたので、突然の訃報に驚きました。

根本正廣さまは顕彰会には、設立当初から入会され、奥様とともに活発に会活動に参加され根本正ゆかりの品についてや根本正のエピソードを気さくにお話になる姿が思い出されます。

第1回ゆかりの地を訪ねる旅アメリカバーモント州の旅にもご夫婦で参加され、根本正が滞在したリビングス家やバーモント大学を訪問されました。不参加者にもお土産をくださるなど細やかなお心遣いをされる方でした。

東京から水戸に住まいを移されたときは、関係者宅を回り引っ越しの挨拶をされ「これで私も茨城県人になりました。」と、晴れやかな笑顔が印象的でした。

根本正廣様はおじい様である根本正を彷彿とさせるお人柄で、当顕彰会にとって象徴的存在でしたので、この度の訃報は残念でなりません。時代が一つ遠くなりました。これまで顕彰会を見守って下さりありがとうございました。

感謝の念ともにご冥福をお祈り申し上げます。

(横地富子 記)

【 編集後記 】

平成30年度根本 正顕彰会総会が去る5月13日に開催され、新しい年度がスタートしました。今年も役員一同会員の皆様方と一緒に、円滑な会務運営に取り組んで参りたいと思いますのでよろしくお願いいたします。

今年は明治に改元されてから150年という記念の年であります。各方面でこれを記念した行事等が実施されております。当顕彰会でも上記の総会後の講演会で小林茂雄会長が「根本 正と明治維新150年」と題して講演し、さらに去る6月24日の本年度第一回公開講座でも「水戸と秋田 <根本家の明治維新>」と題して仲田昭一理事が講演しました。

今年度のこのあとの事業計画の中でも、9月の「根本 正ゆかりの地を訪ねる旅」、そして11月の「公民館まつり」のテーマの中でも「明治維新150年記念」に関連する内容を盛り込む予定でおります。それぞれ期待していただきたいと思ひます。

今年度もう一つ節目の記念を迎えたのが真夏の風物詩である「全国高校野球選手権大会」です。毎年熱い闘いが繰り広げられていますが、今年は第100回の記念大会として8月5日から甲子園球場で開催されます。大正4年に始まって、途中戦争により一時中断はあったものの、国民の関心が高く連日満員のスタンド、全試合を公共放送で完全中継放映されるなどその熱気はすさまじく、我が国最大級のイベントであります。

教育立国を目ざし、教育の充実と青少年の健全育成に取り組まれた根本 正の衆議院議員在職中の時期に開始され、さらに根本 正が政界を引退された大正13年には世界に誇る甲子園球場が創建されたことなどを考えるとき、その精神が100年後の今日まで営々と受け継がれていると感じられてなりません。

第100回記念大会の節目の年、今年もまた球児の真剣なプレーに熱い声援を送りたいと思ひます。

(増子輝雄 記)